

「就職活動体験記」

植物生産環境科学科 Aさん（平成30年度卒業）

今回は私の就職活動による経験をお伝えしたいと思います。今後皆さんが、就職活動を進めていく上での参考になればと思います。

私は農学系の公務員試験のみを受験しました。公務員試験は正直に言うと、とてもつらいものでした。周りの民間企業を受験する友達が内定を決めていく中、地道に勉強や準備をしていく必要があるからです。内定がもらえない可能性があることを考えるとすごく不安でした。しかし、その不安があったからこそしっかりと努力することができて、合格につながったのだと思っています。さらに、同じ公務員を受験する人がいて情報交換や一緒に勉強ができたこと、息抜きに遊びに行ってくれる友達がいたことで最後まで努力を続けることができました。そのため、公務員を目指す皆さんには周りの人と協力し合いながら努力を続けていくことをお勧めします。

次に具体的な活動についてお伝えします。前準備、筆記試験、面接試験の順に説明します。前準備として必要なことは情報収集と自己分析です。私の場合は定期的開催されていた説明会やインターンシップに参加することで情報収集を行いました。職員の方とのお話しや、仕事の疑似体験により、イメージがわきやすくなり、この仕事をしたいというモチベーションになりました。面接における志望動機を考える上でも役に立つので、可能な限り参加した方が良いと思います。また、自己分析においては、民間企業を受験する人が頻繁にセミナーなどで進めているため、民間企業を受験する友達と同じように進めていけば、試験までには余裕を持って分析することができると思います。

筆記試験に関しては、特に農学系は参考書などが少ないため、過去問を解いて、教科書やインターネットを活用してその周辺知識を埋めていけば、十分だと思います。復習しやすいようにノートにまとめながら勉強を進めていくことをお勧めします。面接試験においては、自分の本命の面接試験より前に実施される公務員試験を受験することで練習しました。私の経験上、面接の質問内容や形式が似ている所が多いので、とても有意義な練習になります。面接のマナーや志望動機、学生時代の経験を事前に準備して練習を重ねれば、十分だと思います。

私の就職活動による経験から皆さんにお伝えしたいことは以上です。皆さんの就職活動の成功を心よりお祈り申し上げます。

「就職活動に恐れはならない」

森林緑地環境科学科 Bさん（平成30年度卒業）

これから就職活動を迎える皆さんへ、私の就職活動に対する考え方や行動における“良いところ”を取捨選択して取り入れていただければ幸いです。

はじめに、インターンシップについてお話しします。インターンシップ積極的に参加してみてください。1dayでも構いません。皆さんにとって貴重な経験を与えてくれる

と思います。具体的には、第一に社内の雰囲気を感じることができる点です。ここで感じるものは“なんとなく”で構いません。私は8つのインターンシップに参加させていただきましたが、それぞれ社内に入った時の雰囲気は異なっていました。この“なんとなく”の感情が、実はそのまま社風と繋がっていると思います。もちろん社風はインターネットやパンフレットを通じて知ることはできます。しかし、実際に足を運んでみて感じることで社員さんがどのように従事されているのか、意見が活発に飛び交う現場なのか等、様々な視点から感じるができると思います。第二に、他の就活生と交流でき、視野を広げてくれる存在、就活へのモチベーションを上げてくれる存在になる点です。私は主に東京でのインターンシップに参加させていただきましたが、全国各地から集まる就活生の就職に対する想いや、就活の軸、考え方など様々で、会話を交わすだけで私にとって刺激的で非常に多くの知識をいただきました。また、他の就活生に他己分析してもらい、私自身の第一印象や雰囲気を客観的に知ることができました。

つぎに、情報収集についてお話しします。新聞を読んでみてください。私は父の勧めもあり、昨年から日本経済新聞を読んでいます。新聞というと敷居が高く、中々読みづらいイメージがあるかも知れませんが、今はインターネットやスマートフォンによる電子版もあり、気軽に読むことができます。また、忙しい大学生活にとって全部を見る必要は無いと思います。“見出し”を読んで、面接で聞かれそうな内容や就職活動に対する政府や地方公共団体の政策など、関係が深いと思う内容から優先順位づけして読んでいけば十分ではないかと思います。情報収集について大切な力とは、“情報の取捨選択ができる力を身に付けること”です。売り手市場である現在、非常に多くの企業が働き手を求めています。そういった環境で“情報の取捨選択できる力”は非常に有用になると思います。

最後に、面接についてお話しします。身だしなみは必ず整えてください。髭は完璧に剃られているか、ネクタイは締まっているか、靴は磨かれているのか等、面接官は注目しています。また、大学生生活で頑張ったことは成果まで繋げて話すようにしてください。そして最後に“ありのままの自分”で勝負してください。就職活動はあなたを成長させてくれるチャンスです。恐れずに、果敢に挑んでください。心から応援しています。

「就職活動を経て」

応用生物科学科 Cさん（平成 30 年度卒業）

これから就職活動をされる皆さんは、これから様々な問題に直面するのではないかと思います。そのような皆さんに対して、私の就職活動における失敗を元にもっとこうしていれば良かったと思う点を2つご紹介し、皆さんの就職活動に少しでもお役に立てれば良いなと思っております。

まず、1つ目に就職活動を経て学んだことは「視野を広く持つ」ということです。これから皆さんが就職活動を行うにあたって、将来どのような仕事をしたいか、自分に向いている仕事は何かなどのように、客観的に自分を見つめなおす「自己分析」を行う時期が必ずくると思います。その際に、自分がやりたい仕事や自分の向いている仕事だけで希望職種を絞り込むのではなく、自分が目を向けてなかった分野の仕事にも目を向けるようにしてみてください。その結果、自分がしたいと思っていた仕事により明確な目標へ変わることもあれば、今まで目を向けていなかった分野の仕事に対して興味が湧いてくることもあると思います。今の段階で、あなたが持つ可能性をあなた自身で理解できている人は決して多くはないと思います。自分をより深く理解するという意味でも、これからの就職活動を幅広い視野で臨んでほしいと思います。

そして、2つ目に就職活動で学んだことは「情報量の重要性」です。私の約半年間の就職活動を振り返り、「情報量」の差は選考が進んでいく中で大きく影響したと実感しています。就職活動に関する講演会などに参加した際、地方での就職活動は不利だという話を何度か耳にしたことがありました。確かに企業説明会やインターンシップなどは東京、大阪、福岡などの主要都市で開かれることが多く、そういう点においては行きにくさを実感し、実際に不利だと感じたことはありました。だからといって、地方で就職活動をすることで採用に直結するほどの不利ではないと私は感じています。先ほど述べた通り、「情報量」の差を埋めることがとても大切です。そのための手段は多様で、身近な方法としてはインターネットやSNSを通して実際に企業で働いている人のコメントを見たり、地方の就活生をサポートしている企業やセミナーへ参加し、先輩方や長年就職活動に携わっている方からの助言をいただくこともできます。このように、様々な方法を駆使して情報を身に着け地域格差を補うことで、都市部で就職活動をしている人と対等に、またはそれ以上に戦っていくことができます。これからの就活において必ずあなたを助ける武器になるので、少しでも多くの「情報」を身に付けておくことをお勧めします。

最後に、これから就職活動が始まり、嫌なことや悲しいこと、つらい経験をされる方も少なからずいらっしゃると思います。しかし、それはあなたを成長させるためのステップで、次につながる良い経験になりますので、諦めず最後まで頑張ってください。応援しております。

「後悔のない就職活動を」

海洋生物環境学科 Dさん（平成 30 年度卒業）

私が就職活動を始めなきゃと思ったのは12月でした。しかし、何をしたらいいのか分からず、マイナビ等が開催している就活セミナーに参加し、基本的な知識を集めたり、企業を調べたりしていました。実際に就活を本格的に始めて後悔した事は、企業調べの甘さとESの下手さです。

最初のころ、知っている大手の企業しか見ていませんでした。しかし、よく調べてみると中小の良い企業がたくさんありました。そのような企業は、マイナビ、リクナビ以外の方が見つけやすかったです。その為、大型の就活イベントだけの就活は個人的に良くないと思います。しかし、大型の就活イベントで学んだ事もたくさんあります。業界ごとの特徴や会社ごとの違いが分かるようになった事、また他人の立ち振る舞いや動作を見て参考にしたりしました。

様々な会社を見て、詳しい話を聞けるのは今だけです。知っている会社を増やす意味でも多く見た方がいいと思いました。そして、他業界も見てみると、新たな知識を得られるだけでなく、世の中の流れが少し掴めるようになります。これらは、自分の志望業界や企業の理由付けを深める事に繋がる為、多くの企業、業界を見ることはお勧めします。ただ、負担にならない程度でいいと思います。

次に ES です。初めの ES は今見ると酷く、やはり高確率で落とされています。しかし、何度も添削をするうちに、落とされることはほぼなくなりました。ES は必ず早めを始め、他の人に添削をしてもらってください。できれば複数人に見てもらった方がいいです。宮崎なら学校や駅前のジョブカフェがあります。実家だと学校は頼れませんが、見てくれるところはあります。私が実際に使ったのは、地元の若者就職サポート、タウンワーク、ジョブカフェ、リクナビ就職エージェントです。探してとりあえず行ってみるといいかもしれません。

気負わず、焦らずに出会いを楽しんでください。そして私は、会社との相性は直感だと思っていたので、直感も大切にしていました。その結果、非常に素敵な会社に巡り合う事ができたと思っています。私の就活は初めから大成功ではないからこそ、参考になればと思います。皆さんの就活を応援しています。素敵な出会いがありますように。

「悔いが残らないように」

畜産草地科学科 E さん（平成 30 年度卒業）

私は広島県庁の畜産一般職と民間企業 3 社受け、来年から広島県の県職員として働くことが決まりました。広島県の畜産一般職を受けた動機は、地元である広島県の畜産振興に貢献したい、また、本庁・現場・試験場と幅広い分野から畜産振興にアプローチすることが出来る県庁で働きたいと思ったからです。民間企業は養豚・養牛を受けました。就職活動は 4 年生になる直前と遅くに始めたので、公務員の勉強、民間企業のエントリーシートを切羽詰まった状態で行っていました。助言としては、公務員の勉強は早くから初めた方がいいです。数的処理・判断推理を一日一問ずつ解くことだけを 3 年生から取り組むだけでもいいので。エントリーシートを書くための自己分析も早くから取り

組んだ方がいいです。

【公務員の勉強方法】

一次試験の勉強：専門科目〔畜産一般〕と一般教養〔数的処理・判断推理・時事問題〕
畜産一般の勉強は、畜産ハンドブックと農林水産省畜産系技術職員採用試験問題の過去6年分を繰り返し解いていました。過去問は教務でもらえます。また、畜産の先生にお願いして、特別に畜産系公務員の勉強会を週1回開いてもらい、必ず出席していました。畜産の勉強は範囲がとても広いので、過去問から出題傾向を絞って重点的に勉強すると思います。一般教養の勉強は、時間がなかったので、出題数の半数を占める数的・判断・時事の三科目に絞って勉強していました。自分に合った参考書を繰り返し解いて勉強していました。

二次試験（面接）対策：面接カードの作製と面接練習

面接カードは、何度も畜産の先生方に添削して頂いていました。以前、畜産公務員に務めておられた先生方から、公務員受けする面接カードの書き方などを教えていただけだったので、ためらわず、何度も添削して頂いた方がいいです。私は文書力が拙いので、たくさん書き直しましたが、書き直す度に要点を抑えた上で解りやすい面接カードになったと思います。

面接練習は畜産の先生方に指導して頂きました。時間がある限り、いろんな先生方に見て頂き、色々な質問に慣れておく事で、本番でも余裕が生まれると思います。また、企業の面接で場慣れしておく方がいいと思います。

私は就職活動を開始するのが遅かったので、切羽詰まった状態で行っていました。3年生から、合同会社説明会やインターンシップに参加するなど、早くから活動しておいた方が4年生で余裕を持って就職活動を行えると思います。また、積極的に先生方に面接カードの添削や面接練習などをお願いしてください。学生での就職活動は一生に一度だけです。公務員に至っては長期戦で辛いと思う事もあると思いますが、悔いが残らないように頑張ってください。

「公務員獣医師を目指す」

獣医学科 Fさん（平成30年度卒業）

獣医学科生が公務員を志望する際に最も時間をかけるべきなのは、受験する自治体を「選ぶ」段階だと考えます。各自治体はその地域の特性に基づいて、畜産分野や公衆衛生分野など、業務内容とその割合にかなりの差があります。もちろんパンフレットやホームページからある程度の情報を得ることはできますが、やはりインターンシップ等で実際に体験し、話を聞くことが一番です。自分が特にどの分野に向いているのかを考えるきっかけになるほか、職場の雰囲気等を直接確認できる点も大きなメリットです。他のどこでもなくここに行きたい、と言える就職先を見つけることは、そ

の後の試験・面接対策の際のモチベーションにもつながるので、非常に重要です。さらに、受験するという点では試験内容についての確認も軽んじてはいけない部分です。獣医学に関係する、いわゆる国家試験範囲内の問題のみの自治体もありますが、数学や社会科など基礎科目の試験も実施されるところもあります。もしそのような自治体を受験するのであれば、試験対策により早期から取り掛かる必要があるかもしれません。また、前年度までの試験で、筆記試験・面接試験それぞれの合格率等を公表していることもあるので、どちらにどれほど重点を置いて対策すべきなのかを決めるため、情報を有効に活用すべきです。

次に受験対策についてです。ここでも、必要な情報を集めることは効率的な対策につながると強く感じました。筆記試験対策は、自治体の特色を鑑みつつ、国家試験の過去問題等を利用しながら行いました。前年度までに公務員を受験した先輩方からもアドバイスをいただきました。私の場合は、特に面接の対策に苦労しました。私は人前で話すことが苦手だという自覚があったので、少しでも自信をつけるために事前の準備に力を入れました。就職活動の面接に関する講座等を利用したり、筆記試験と同じく先輩方にアドバイスをいただきました。また、一般的に想定される質問を参考書で調べ、それに対する返答を事前に整理して、シミュレーションを行いました。受験する自治体の特色を学んである程度の知識を持つておくことも、本番での緊張緩和につながったと思います。獣医学科は他学科と比較してこういった情報が耳に入りにくい部分もあるので、自分から積極的に情報を収集しようという姿勢が必要だと感じました。

希望する道へ進めるよう、悔いのない就職活動をしていただきたいと思います。

「私が最も力を入れたこと」

植物生産環境科学コース Gさん（平成30年度修了）

私の就職活動は研究室推薦を頂いたため他の人とは違い、3か月間と短いものでした。しかし、非常に濃いものだったと思います。この就職活動で最も力を入れたことは自己分析です。自己分析とはいっても、就活サイトのテスト形式のものではありません。自分の人生を振り返り、小学校から今までの自分の経験やスキルの他、きつかったことや困難をどう乗り越えてきたのかなど、すべて洗いざらい書き出して分析することです。この自己分析をすると、本当の意味で自分を知り、面接で詰まることなく話すことが出来ました。私の場合、常に挑戦することを意識してきました。中でも大きな挑戦は英語を話そうと思ったことです。

私は英語が苦手で、センター試験でも200点中80点でした。しかし、自分には海外で働きたいという大きな夢がありました。人づてでフィリピンの英語教師と知り合うことが出来、そこで毎日skypeを通じて1時間勉強し、半年たった頃には日常的なコミュニケーションが可能なまでになりました。

推薦先の企業は外資系だったのですが、その企業面接でもこの話をしました。すると面接官から「それなら最終面接でもすべて英語で話せるよね？」と言われました。自分は英語で最終面接をすることを約束しました。最終面接では、自分の研究対象の天敵昆虫のこと、実験設計や企業に入ってからやりたいことなどを英語で伝えました。最後に、社長から「You will be hired.」と言われたときに、嬉しくて足が震えたことをよく覚えています。「You are fired.」じゃなくて本当に良かったとも思いました。

本当の意味で自分を知ることが出来れば、面接には経験則ですべて対応することが出来ます。あなたは今までどんな経験をして、何ができるのか？それを解き明かすことが企業の内定獲得、あるいは夢に近づく鍵になると思います。あとは基本的なことをするだけで大丈夫だと思います。企業分析、面接練習、文章作成など、研究室の教授や友達、ハローワークの人と相談しながら進めることが大切だと思います。

履歴書・ES および企業面接は相手が興味を引くことが言えるかが重要だと思います。しかし、企業や人によって興味を引く事柄はそれぞれ違います。どんなに入りたい企業でも相手側に響かなければ内定を貰えません。仕方ないこともあります。落とされたからと落ち込むこともあると思いますが気持ちを切り替えて次に臨みましょう。客観的に自己分析をした人なら自分の思いを上手く伝えることが出来ると思います。相手企業に「この人は一味違う！」と思ってもらえれば勝ちです。上手くいくことを祈っています。頑張ってください。

「気持ちが向かなければ寄り道もあり」

森林緑地環境科学コース Hさん（平成 30 年度修了）

わたしは修士 2 年で初めて就職試験を受けました。しかもほぼ第一志望しか受けなかったようなものです。しかしわたしはこのやり方でとてもよかったと思っています。

学部 3 年の新学期、社会人としてやっていく姿が全く想像つかないのにもう就活の話?!と感じていました。自分の気持ちが向かないままとりあえず就職活動をするというのも違う気がしていたので、いろいろと考えた結果、将来林業関係の仕事に就きたいのは確かだし研究にも少し興味があるのだから、大学院で勉強して自信をつけてから就職しよう、という結論にいたりしました。とりあえず学科主催の林業関連企業・公務員説明会にだけは参加しましたが、ラッキーなことにそこで試験方法が自分に向いていて、この熱意ある方たちと一緒に働きたいと思える職場に出会い、第一志望はあっさりと決まることとなりました。

大学院では学業面はもちろん、自己管理などの生活面でもたくさんを経験しました。失敗して猛省することも多々ありましたが、論理的にわかりやすく伝えること、自分にできないことを判断して助けてもらうことなど、人生に必要なことをたくさん学びました。

修士2年になり本格的に対策を始めましたが、筆記は自分に合った方法で淡々と勉強するしかありません（わたしの場合は過去問を解き各問から芋づる式に整理していく、前からやっていた方法）。自己PRは大学生活を思い出せば書く内容には困らなかったの
で、書き方やどのエピソードが適当かのアドバイスをもらいました。面接や集団討論は1, 2回模擬練習もしましたが、アルバイトやサークル活動、学会などでいろいろな種類の人たちと話す機会も多かったので、本番では過度に緊張せず、面接官とちゃんと“話す”ことができました。つまり、いままで自分のやるべきこと・やりたいことにその都度試行錯誤しながら一生懸命取り組んできたことが、結果的に役に立ったのです。まわりの人に助けられ充実した大学生活を送れたこと、失敗しながらも成長できたことがわたしの就職活動における最大の勝因でした。

就職活動はあくまで自分の生活（人生）を選ぶひとつの手段であり、目的になってはいけないと思います。わかりやすく伝える準備と最低限のマナーがあれば、自分に自信をもっていつも通り臨めばよいのではないのでしょうか？そんなの無理！と思うのであれば、わたしのように少し寄り道してみるのも手だと思います。

「情報を集め対策を立てよ」

応用生物科学コース I さん（平成30年度修了）

私は公務員試験を受験しました。公務員試験は筆記試験と論作文、グループディスカッション、面接など多岐にわたります。そのため不安に思っている方も多いと思います。私もそうでした。そこで私がしたことは「情報収集」です。敵が分からないことには対策が立ちません。ここでは公務員試験について私がすべきと思ったことを厳選して述べたいと思います。

① 日程を把握し計画を立てる

試験日程を年明けぐらいにはある程度把握しておくと思います。私の時は国家総合職試験が一番早い時期(4月)にありました。この時期に合わせて勉強等進めておく
と他の公務員試験に余裕を持って臨むことができると思います。

② 国家総合職試験・国家一般職試験を受験する

他の自治体を目指している方にも是非受けてほしい試験です。農業や化学等で受験する方はあまり専門試験の実力を試す機会がありません。自分の実力を把握するにも良い機会ですし、その年の傾向を掴むこともできます。また公務員試験はどの試験も日程が近く、思っていたより数を受験できないことがあります。チャンスがあれば数多く受験しておくのが良いと思います。

③ 受験する自治体の点数比率を知り対策を立てる

筆記試験は自治体によっても異なりますが、教養試験・専門試験があります。採点の仕方が教養：専門=1：1であればどちらもバランスよく対策した方が良いですが、私が受験した自治体は教養：専門=2：5でした。そのため私は専門試験の対策をしっか

りを行い、教養試験は問題数の多い数推・判推・現代文、得意科目の生物に絞って勉強しました。

④ 書類と面接の印象をマッチさせる

2次試験以降書類を書く機会が増え、1つの書類に時間をかけられない場合があります。そうなる前に受験する自治体の取り組み等学んでおくのが良いと思いますが、それ以上に面接で試験官に与える自分の印象と書類から見られる自分の印象をマッチさせることが大切です。そうすることでより相手に自分を強く印象付けられると思います。

⑤ グループディスカッション・面接はとにかく数をこなす

この2つはとにかく慣れです。大学に外部から来て下さっている方や公務員講座の先生等、様々な方と多くの練習を積むと良いと思います。

以上になります。皆さんの就活の助けになれば幸いです。

「君なら飛べるよ！You can fly!!」

農学国際コース Jさん（平成30年度修了）

私の意見や経験をQ&A方式で以下にまとめました。（※あくまでも個人の意見なので間違い等あると思います。参考程度に見て下さい。）

Q. 学歴フィルターは存在していますか？

水処理系の企業説明会を受けた際に、採用担当者の方が一部では存在していると仰っていました。工学系の技術職の仕事に多いそうです。私は食品の開発職を中心に一部、玩具やスポーツ業界など幅広く就活を行いましたが、あまり学歴を気にすることはなかったです。また某即席麺メーカーの採用担当者の方が「学力的に優秀な人材だけ欲しいれば東大と京大だけに限定して募集すればよい、企業が新卒採用としてオープンに全国から平等に募集をかけているのには意味がある。」と仰っていました。実際に社員の多様化を図るために、各地の大学から様々な背景を持った人材を揃えたいと考えている企業は多いと思います。そういった観点では宮崎大学は都会の人からすると個性的で、ある意味興味深く思われるかもしれません。

Q. 自己分析とは何ですか？目的は何ですか？

心から入社したいと思う企業や業界、職種を見つける事だと思います。そのために自分の過去を振り返り、何に興味を持ち、打ち込んできたかを整理する必要があります。かつこよく言うと、自分の過去と未来をつなげ論理的に説明できるようになることだと思います。

Q. 就活準備として何をすべきですか？

私は修士1年生の6月から行きたい業界の見本市（ゲームショーとかモーターショー等）に参加したり、インターン（4社程）に参加したりしました。とにかく行動することだと思います。これらの意欲的な活動はエントリーシート（ES）や面接でアピ

ールすることができ、同じ就活生との情報交換、ES やグループワークの練習ができるので旅費を払う価値は絶対にあると思います。

Q. 就職先は大学の専攻分野と関連する業界にしないといけませんか？

あまり関係ないと思います。私は大学院で農学を専攻していますが、玩具・ゲームなどのエンタメ業界もいいところまで進みました。専攻に縛られず、自分が本当に行きたい企業であるかという事が最も大切だと思います。

Q. ES に書くエピソードがありません。

人と被らないような特別なエピソード（世界一周、スポーツで1位など）を書く必要はないと思います。優秀な人のESほど案外、普通のこと（バイトを4年間無遅刻で続けたなど）が書かれてたりします。採用側はESから人となりや性格を見たいと思っています。エピソードが邪魔してそれらが伝わりにくいESはNGです。ESの原稿は絶対に一度第三者に添削してもらってください。私は就活支援課を活用しました。

Q. やりたい仕事が見つかりません

私も昔はそうでした。堀江貴文曰く、やりたいことがない人なんていないらしいです。やりたいことがないのではなく、やりたいことがあまりにも困難に思えて、簡単に選択肢から除外しているらしいです。是非調べてみてください。

「絶対に真似してはいけない就活」

畜産草地科学コース Kさん（平成30年度修了）

私の就活は、全く参考にならない、真似してはいけない就活だったように思います。私は、自身の性格から企業は向いていないと感じていたので、志望を公務員に絞りました。公務員講座は、紆余曲折あって2年前の生協講座のテキストを所持していたこと、講座が肌に合わないと思ったことを理由に受講しませんでした。

修士1年生の秋、そろそろ公務員試験の勉強をしなければ！と思いつつ、研究や学会の準備に追われ、結局私がその頃からした対策と言えば「できるだけ、1日に1問数的処理の問題を解く」ことだけでした。修士2年生の5月上旬、ようやく「やばいな」と思った私は、まずは某通販サイトで畜産ハンドブックを、そして農学部の教務へ行き国家公務員試験の過去問を入手しました。遅すぎる行動ですね。1次試験は6月の中旬で時間がなかったため、私は一般教養や専門に関わらず、とにかく過去問を解き、そこに出てきた範囲について復習するという方法で勉強しました。一般教養について、しっかりと復習したのは得意分野（私の場合、数的、文章理解、理系分野）のみで、不得意分は今からだどうせ覚えるのも間に合わないだろうということで解説をざっと読むだけでした。結局使ったテキストは、数的処理の問題集と畜産ハンドブックだけでした。試験当日は「なんとかかなるでしょう！」と気持ちを強く持って落ち着いて受験しました。

二次試験の面接対策は、学生生活支援課に定期的に来ているハローワークの方にお問い合わせしました。予約と時間の関係から、見て頂けたのは志望動機の手書きチェックを2回、

面接練習を1回だけでしたが、全く見てもらわないよりは行った方が絶対にいいと思います。面接試験には、1回だけの練習経験と自分の自己PRと志望動機だけを頭に叩き込んで、後は「面接官の方とお喋りしに行こう」という心持ちで臨みました。我ながら危ない橋の渡り方だなと思います。結果合格しましたが、面接練習はもう少ししておいた方が絶対にいいです。

以上、長々書きましたように、私の就活は反面教師のような就活でした。そんな私でも言えることがあるとすれば、「対策は早めに」ということと「試験に落ちたからと言ってそこで人生終わるわけでもないので、試験当日は落ち着いて、いつも通りの自分で臨む」ことくらいかなと思います。就活中、心はタワシのように剛毛が生えてるくらいで丁度いいのかもしれません。これから就活の皆さん、健闘を祈ります。こんなザルな対策でも受かるんだな、ではなく他の先輩方のメッセージを参考にしつつ、頑張ってください！